

単元名

現代社会の見方や考え方

1 単元のねらい

社会集団の中で生活する人間は社会的存在であることを生活経験などから実感し、決まりの意義や決まりの目的、方法について考える活動を通して、対立や合意、効率と公正などが現代社会を捉える視点や方法として社会的事象について考えることで、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のために選択・判断することができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象において、決まりの価値や合意形成をしていくために必要な視点として対立、合意、効率、公正などの意味を理解し、全会一致、多数決などを方法として理解できる。 ・具体的な事例に基づき、物事の決定の仕方やきまりの意義についての資料を選択し、現代社会を捉える見方や考え方を理解するために必要な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表にまとめたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をもとに、社会生活における物事の決定の仕方やきまりの意義について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方をふまえて考えることができる。 ・具体的な事例をもとに、対立を合意に導くために、全会一致や多数決などの方法を選択し、追及のために必要な資料を選択・判断することができる。 ・社会集団における対立の存在と合意への努力について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に生きる一人の人間として、身近な生活体験や、具体的な事例について、積極的に考えることができる。 ・自己の考え方や、価値観を客観的に理解しつつ、授業の課題を追求、解決していくために、学習の方法や交流中の姿勢など、自らの学びを調整しながら学習することができる。

●学習改善につなげる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5
知識・技能	●	○		●	
思考・判断・表現			●		●○
主体的に学習に取り組む態度	●	●			

3 単元構造図（全5時間） ☆獲得する認識

現代社会の
見方や考え方

単元学習前の生徒の意識

社会集団の中で、よりよく生活するためには決まりやルールが必要だ。その決まりやルールは、みんなが納得するものであるべきだけどうやって決めるのだろう。

第1時 社会集団の中で生きるわたしたち 【●主体的に学習に取り組む態度 ●知識・技能】

トラブル（対立）を解決するには、どんな方法があると考えられるか

☆社会集団 ☆社会的存在 ☆地域社会 ☆対立 ☆合意

社会集団の中で生活する自分たちは、社会集団に所属し、その一員として協力し合わなければ生活していくことや、発展、成長することができない社会的存在であることが分かった。これまでの生活でも、対立することはあった。そのような対立を、極端な結論や対立のままにするのではなく、全員が納得できる合意形成にしていくことが大切である。

社会集団の中で起きる対立を解決するために大切なことはどんなことだろう

第2時 効率と公正 【●主体的に学習に取り組む態度 ○知識・技能】

どうすれば全員が合意して班別研修ができるか。

☆効率 ☆公正

みんなが納得できる（合意できる）解決策を考えるためには、無駄を省いて効率的な解決策であるかという考え方と、みんなが平等に扱われていて公正な解決策であるかという考え方の両方のバランスを考える必要がある。そのバランスに双方が納得できるかどうか重要である。

第3時 決まりをつくる目的と方法

【●思考・判断・表現】

なぜ班別研修に決まりが必要で、どのような方法で決まりを作れるか。

☆決まり ☆権利 ☆義務や責任
☆全会一致 ☆多数決 ☆少数意見の尊重

だれにどのような権利があり、どのような義務や責任が生じるかが明確であることで全員が納得する合意形成ができる。また、決まりの内容だけでなく、合意形成の過程も重要で、全員が参加していたか、全員の意見が反映されているかなどの視点が大切である。

第4時 決まりの評価と見直し

【●知識・技能】

決まりを変更するにはどうしたらよいか。

☆きまりを評価する視点 ☆立場 ☆公正
☆時間・お金・もの・労力

どれだけ公正に合意形成された決まりでも状況や実態に応じて見直すことも必要である。その際には、決まりの目的を明確にしなが、公正さ、平等さ、立場を変えても受け入れられるかなどの視点を置いて考える必要がある。また、時間やお金など、効率のよさも重要視される。

第5時 よりよい社会生活を営むために 【●○思考・判断・表現】

学校の校則について、視点をもって見直そう。

☆効率 ☆公正 ☆権利 ☆責任 ☆義務

学校で設定されている校則が、校内の一人一人の権利を尊重するためにあり、校則が権利を守っているからこそ、学校で生活する個人や集団には決まりを守る責任や義務が発生している。しかし、効率や公正という視点などで考えて、状況や実態に合っていない校則に関しては見直すことも必要である。その場合には、決まりを評価し、適切な過程で合意形成を目指していく必要がある。

単元学習後の生徒の意識

一人一人が社会で生きていくには、社会集団の状況や実態に合った決まりが必要であると分かった。対立を合意に導くには、合意に至るまでの過程での公正さや、個人のもつ権利とそれに関わって発生する責任、義務を意識していくことが大切であると分かった。

4 単元指導計画

時	ねらい	おもな学習活動	評価基準	資料および留意点
1 社会集団の中で生きる私たち	<p>身近な社会集団の例を通して、人間が社会的存在であることを理解し、社会集団における対立の存在と合意への努力について考えることができる。</p> <p>★社会集団 ★社会的存在 ★地域社会 ★対立 ★合意</p>	<p>1 学校や部活動、日常生活で起きるトラブルについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の大縄の練習 ・班別研修の行き先 ・サッカーのプレーに関する違い <p>トラブル(対立)を解決するには、どんな方法があると考えられるか。</p> <p>2 解決方法を交流し、どのような視点で解決していくことが必要か考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が苦手な子も得意な子も納得できる。 ・みんなが納得できる。誰かだけ損や得をしない。 ・チームの勝利を第一にするが、個人の考えも大切である。 <p>3 本時の学習をまとめ、単元の学習課題を設定する。</p> <p>社会集団の中で起きる対立を解決するために大切なことは、どんなことだろう。</p> <p>個人の権利が尊重される社会を目指すためには、社会集団に属している一人一人が、個人と集団の権利や責任、義務を意識していく必要がある。しかし、対立が発生する場合には、合意に至るまでの過程での公正さや、個人のもつ権利とそれに関わって発生する責任、義務を意識して合意を目指すことが大切である。</p>	<p>これまでの生活を振り返り、具体的なトラブルや対立の例を挙げ、合意に導くために何が必要か主体的に考えることができる。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>日常に存在するトラブルの共通点に着目させることで、「対立」と「合意」の意味を理解させる。</p>
2 効率と公正	<p>修学旅行の班別研修を例に、効率や公正の意味について理解することを通して、複数の「公正」があることに気付くことができる。</p> <p>★効率 ★公正</p>	<p>1 修学旅行のユニバーサルスタジオジャパン班別研修でのコースの例を示す。(A案・B案・C案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A案は絶対に嫌だ。 <p>どうすれば全員が合意して班別研修ができるか。</p> <p>2 解決方法を各班で交流し「効率」と「公正」についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が納得するためには、個人が自分の利益や主張を通しすぎてはいけない。 ・全員が完全に納得することは難しく、全員がおおむね納得するようにはしていく必要がある。 ・個人的な主張だけでなく、班の動きなどに無駄がないかを意識する。効率がよいかどうか。 ・効率ばかりでなく、全員が公正に参加し、公正に意見を言う場があるかを意識する。 <p>4 本時のまとめ</p> <p>みんなが納得できる(合意できる)解決策を考えるためには、無駄を省いて効率的な解決策であるかという考え方と、みんなが平等に扱われていて公正な解決策であるかという考え方の両方のバランスを考える必要がある。そのバランスに双方が納得できるかどうか重要である。</p>	<p>時間やものなどを無駄なく活用することが効率という考え方であること、特定の人が不当にあつかわれないようにすることが公正という考え方であることを理解している。</p> <p>(知識・技能)</p>	<p>「効率」と「公正」は、どちらかを重視すると、もう一方がおろそかになる場合があることを指導する。</p>

<p>3 きまりを作る目的と方法</p>	<p>自分たちが考えた決まりについて、その決まりを設定したことでどんなメリットがあるか考えることで決まりが必要な理由を理解できる。また、決まりを公正に作るための方法を理解することができる。</p> <p>☆決まり ☆権利 ☆義務や責任 ☆全員一致 ☆多数決 ☆少数意見の尊重</p>	<p>1 前時に設定した班別研修の決まりを交流する。</p> <p>なぜ班別研修に決まりが必要で、どのような方法で決まりを作れるか。</p> <p>2 各班で決まりができたことでユニバーサルスタジオジャパンでの班別研修でどんなメリットがあるか交流する。</p> <p>・事前に全員が納得する案を考えたことで、当日に対立することなく、効率よく班別研修ができる。</p> <p>3 決まりを公正につくるための方法を理解する。</p> <p>4 本時のまとめ</p> <p>決まりがあることによって、効率よく班別研修ができる。しかし、決まりの内容が効率のよいものであっても、決める過程での公正さも重要となる。公正に合意形成をしていくためには、全会一致や多数決などの方法を状況に合わせて活用することが大切である。</p>	<p>前時の導入時の案と、話し合っ決めて決まりを比較して、作った決まりのよさや価値について考えることができる。(思考・判断・表現)</p>	<p>決まりの内容がよければいいのではなく、決めていく過程も重要であるとことを指導する。</p>
<p>4 きまりの評価と見直し</p>	<p>きまりと問題の状況から問題点を列挙し、具体例をもとに、きまりを評価するための視点を確認することができる。</p> <p>☆きまりを評価する視点 ☆立場 ☆公正 ☆時間・お金・もの・労力</p>	<p>1 前時まで作成した班別研修での決まりについて、所持金と研修時間を短縮することで、決まりを見直す必然性を強くする。</p> <p>・この研修時間では、これまでの決まりは納得できない。</p> <p>決まりを変更するにはどうしたらよいか。</p> <p>2 決まりを評価する項目を明確にし、項目ごとに決まりを評価していく。</p> <p>・目的は実現できるけど、Aさんの行きたいところだけ行けなくなる。</p> <p>・食事をあまり食べない子にとってはいいけど、他の子はお金が足りない。</p> <p>きまりは、状況の変化によって見直し変えていかなければ、よりよい集団生活は成り立たない。見直すためには、効率と公正という考え方で、関わる人たちの状況や条件、主張などを加味して考えていきたい。この考え方や方法は身近な問題から、国家間の取り決めに至るまで同様の考え方として大切にしたい。</p>	<p>評価を見直す項目を明確に理解する。また、項目ごとに評価について考えることができる。(知識・技能)</p>	<p>評価項目に対して、はい・いいえの二択だけではなく、その理由を明確にさせる。</p>
<p>5 よりよい社会生活を営むために</p>	<p>学校で設定されている校則は、個人の権利を尊重することにもつながる。しかし、状況や実態の変化によっては、校則を見直す必要もある。</p> <p>☆効率 ☆公正 ☆権利 ☆責任 ☆義務</p>	<p>1 学校に校則について、どのような校則があり、それは何のためにあるのか考える。</p> <p>・給食のエプロンの着用 ・通学バックを自転車の荷台につける。</p> <p>学校の校則について、視点をもって見直そう。</p> <p>2 今の状況や実態に合っていない校則について、視点を明らかにしながら新たな案を考える。</p> <p>・暑い夏に制服での登校は熱中症の危険があるため、登校中は体操服を許可するべきだ。</p> <p>校則があることで、生徒一人一人の権利が守られている。また、状況や実態が変われば決まりも変化していく必要がある。その際の決め方や変更の基準も公正であるかなどの視点が重要である。</p>	<p>なぜ校則が存在するのか、今の状況や実態に合うのかどうかを一人一人が判断することができる。(思考・判断・表現)</p>	<p>校則について、直感的な否定ではなく、個人の権利や公正さなどの視点で考えることを促す。</p> <p>新たにできた校則案を生徒会に提案させる。</p>